

キリングループ CSRレポート 2009

わたしたちが大切にしていること

## **INDEX**

会社概要·····	. 2
トップコミットメント	. 3
キリングループの経営理念とCSR	. 4
コーポレート・ガバナンス	
リスクマネジメント/コンプライアンス	. 7
<事業を通じてのCSR活動>	
お客様とともに お客様価値の創造	
ハイライト・食の安全のために	
品質向上への取り組み	
お客様満足の向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
得意先・取引先とのかかわり	14
食文化への取り組み	15
社会とともに 環境への取り組み	
ハイライト・低炭素企業グループをめざして	
グループ環境マネジメント	
低炭素社会への取り組み	
循環型社会への取り組み	
自然共生社会への取り組み	23
社会とともに アルコール関連問題への取り組み	25
任芸とともに アルコール関連向題への取り組み	25
従業員とともに 人間性の尊重	
ハイライト・多様な人材がいきいきと活躍するために	. 26
いきいきと働ける職場づくり	
0.50.50 国N/ 公明/m フヘブ	20
株主とともに 株主価値の向上	
株主・投資家とのコミュニケーション	. 29
<企業市民としてのCSR活動>	
社会貢献	30

## 編集方針

キリングループの多岐にわたる活動については、キリンホールディングスおよびグループ各社のWebサイトで詳細な情報を開示し、本冊子では2008年度の主な活動を中心にご報告しています。また、個々の活動に対して第三者からのご意見を頂戴しました。

- 対象期間:2008年1~12月(一部2009年の活動も含む)
- 対象範囲

社会性報告:キリンホールディングスおよび主要事業会社

環境報告:P18に記載

◆考にしたガイドラインGRI『サステナビリティレポーティングガイドライン第3版』環境省『環境報告ガイドライン(2007年版)』

※GRI (Global Reporting Initiative) ガイドライン対照表は、Webに記載します。

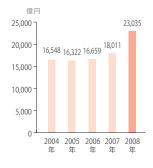
次回発行予定:2010年6月

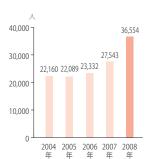
## 会社概要

商号	キリンホールディングス株式会社 Kirin Holdings Company, Limited
設立	1907年 (明治40年) 2月23日 ※ 2007年7月1日純粋持株会社化に伴い、 「麒麟麦酒株式会社」より商号変更
本社所在地	〒104-8288 東京都中央区新川2-10-1 TEL 03 (5541) 5321 (代表)
代表取締役社長	加藤 壹康 (かとう かずやす)
資本金	102,045,793,357円
売上高	2,303,569百万円 (2008年12月期キリンホールディングス連結業績)
主な事業	グループの経営戦略・経営管理 ならびに専門サービスの提供
従業員数	263人 (キリンホールディングス連結従業員:36,554人) (2008年12月31日現在)

## 売上高の推移(連結)

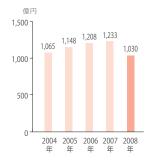
## 従業員数の推移(連結)





#### 経常利益の推移(連結)

#### セグメント別売上高





🚺 詳しい情報は、Webサイトでご覧いただけます。

http://www.kirinholdings.co.jp/csr/

ここ数年、キリングループは大きな変革に取り組んでいます。2006年にキリングループ長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン2015(KV2015)」を発表し、純粋持株会社制に移行したのに続き、国内外での事業再編・M&Aをすすめています。規模の拡大に伴う量的拡大から、今後は質的拡大が課題ですが、「非連続の発想と実行」により着実に前進していきます。

## 事業を通じてのCSRの推進

キリングループが急速に姿を変えていっても、変わらないことがあります。それは、1907年創立以来、大切にしてきた「お客様本位・品質本位」という価値観です。常にお客様の声に耳を傾けながら、妥協せず品質にこだわり続け、「食の安全」と「お客様の満足」を追求してきました。"キリングループは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよろこびを広げていきます。"というグループ経営理念を掲げていますが、経営理念の実現のためには、財務面での成長の視点や公正・効率なガバナンスの視点だけでは足りません。持続可能な社会なくして企業は存続できませんので、企業価値の継続的拡大にはCSRの視点を持ち、事業を通じて社会的課題の解決に貢献する視点が重要だと考えています。

## 低炭素社会をめざして

私たちは事業を通じてのCSRをお客様、従業員、 株主、社会という4つのステークホルダーの視点で 取り組んでいますが、昨年はキリングループが共通 のテーマとして何ができるのかを1年掛けて議論して きました。その結果、大地の恵みを糧とする企業グ ループに相応しい中長期的なテーマとして「低炭素企 業グループ」の実現に向けて取り組むことに決めま した。

これまでもCO2の排出削減の取り組みは製造・物流・営業の各段階で積極的にすすめてきましたが、私たちのめざす姿は単にカーボンミニマムのみならず、豊かさを実感できる簡素な暮らしや自然との共生も含めた社会の実現です。キリングループ単独で、この大きな課題を解決できるわけではありませんが、事業活動のすべてのバリューチェーンで取り組むこ

とは「非連続の発想と実行」を基にした経営のイノベーションそのものであると考えています。工場など特定の部門の人だけの課題ではなく、従業員全員で考えていきたい。具体的な取り組み計画は、各事業会社の次期中期経営計画(2010-2012年)に反映していきます。

## グローバル化の推進と人材育成

もちろん、取り組むべき課題は他にもたくさんあります。急速にグローバル化をすすめる中、キリングループの成長を支える最も大切な資源は人材であると考えています。中長期の視点に立って経営目標を達成するためには「人重視の経営」を基本に、「多様性」、「国際性」、「経営力」のある組織となるべく人材育成に注力していく必要があります。また、2005年には国連グローバル・コンパクトに参加表明していますが、事業活動をすすめる上での行動指針のひとつと位置づけ、グローバルな課

題解決にも取り組んでいきます。
2009年度もグループー丸となって
経営理念の実現に向け、さらに進化
した取り組みをすすめていきます。

キリンホールディングス株式会社
代表取締役社長
カロ 藤 壹 康

# キリングループの経営理念とCSR

『キリングループは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよろこびを広げて いきます。』というグループ経営理念を掲げて事業を行っています。グループ行動宣言をステーク ホルダーの皆様との約束とし、事業を通じたCSR活動をすすめる一方で、企業市民としてのCSR 活動を推進することで、グループ経営理念の実現をめざしています。

キリングループは、すべての事業を通じたCSR活 動の中長期的なテーマとして自然・社会との共生を めざす「低炭素企業グループの実現」を新たに掲げ、 より一層取り組みをすすめていきます。

2008年度は経営理念の浸透度やCSRに関する従業 員の意識調査を実施し、約7,700名から回答がありま

した(対象はキリンブランド事業を行う10社9,858名 で回答率は78.0%)。グループ各社で理念浸透活動 を実施しているほか、階層別研修やイントラネット を活用した情報発信を行うなど、さらなるCSRの浸 透を図っています。

## 「社会の利益をもって企業の利益とする」ことで持続可能な社会に貢献します。

企業のCSRは、経営の根幹であり「社会の利益をもって企 業の利益とする」ことで持続可能な社会のために具体的な 貢献を果たすことが大切です。私たちは、「信頼と躍進」 のキリングループとして社会的な高い評価を得るために も低炭素企業グループの実現を軸に、自然と調和・共生 する社会づくりをめざした活動を推進していきます。創立 以来の「お客様本位・品質本位」の価値観を基本に、従業

員一人ひとりが自覚を持って事業を通じ、 また企業市民として、その活動を社会と 連動させ、積極的にCSR活動を実践して いきます。

キリンホールディングス株式会社 常務取締役 大和田 雄二



## グループ経営理念

キリングループは、自然と人を見つめるものづくりで、 「食と健康」の新たなよろこびを広げていきます。

## 価値観

私たち一人ひとりが 大切にすること

#### お客様本位

お客様のことを誰よりも理解し、お客様 の期待に応えるために、いつもお客様と のコミュニケーションを大切にすること

#### 品質本位

独自の技術を磨き続け、こだわりを大切に しながら、絶えず高品質を追求すること

#### **先駆**

自由な発想で、進んで新しい価値を提案 すること

#### 誠実

公正でまじめな姿勢を貫くこと

## 行動の基本姿勢

**私たち一人ひとりの** 行動における 3C

#### Challenge チャレンジ

結果を恐れずに自ら進んで行動し、新 しいことや変化に積極的に立ち向かう 姿勢

**Commitment** コミットメント すべてのことに関して深く考え、本質 を見抜き、果たすべき役割と目標達成 に責任を持つ姿勢

**Collaboration** コラボレーション しなやかな連携・連動の精神をもって 協力・協働する姿勢

## グループ行動宣言

お客様

独自の技術により、お客様にとって価値のある、 安全・安心で高品質な商品・サービスを提供し ます。

(お客様価値の創造)

従業員

従業員一人ひとりが自主性・創造性を発揮し、 仕事への誇りとやりがいをもって働くことが できる場を創ります。

(人間性の尊重)

株主

長期的かつグローバルな視野にたって株主に対 する責任を果たし、継続的に企業価値の向上に 努めます。

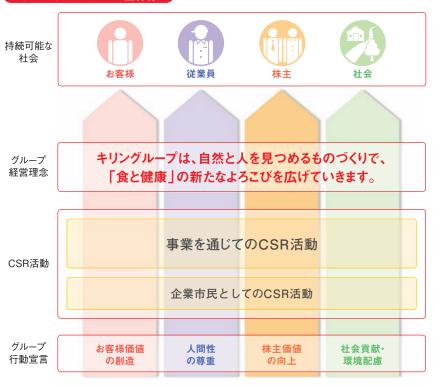
(株主価値の向上)

社 会

持続的な社会の発展に貢献するとともに地球環 境に配慮した事業活動を行い人々のより豊かな 暮らしづくりを支援します。

(社会貢献・環境配慮)

## キリングループ CSR 全体像



キリングループは、これまで CSRを①企業として基盤とュニ 取り組み②社会とのコミュニケーションを深める取り組 りまるとの共生をめざす取り組みですすめてきました。このCSR活動」と「企業市民としてのCSR活動」の2つの取り組みに大別し、要を通じてのCSR活動の2つの取り組みに大別し、要性とお客様・従業員・株主・の皆様というステークホルダーの皆様というステークホルダーの皆でもに明確にしました。

## グローバル・コンパクトへの参加表明について

キリングループは、2005年9月に国連グローバル・コンパクトへの参加を表明しました。グローバル・コンパクトは、1999年にアナン前国連事務総長が提唱し、グローバル企業に対して責任ある企業市民としての行動を求めていま

す。キリングループはグローバル・コンパクトの理念を全面的に支持し、地球市民の一員として責任ある行動をとっていきます。

#### 「国連グローバル・コンパクト」の10原則

【人権】 企業は、

原則1:国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、 原則2:自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。



原則3:組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、

原則4:あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、 原則5:児童労働の実効的な廃止を支持し、

原則6:雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。

【環境】 企業は、

原則7:環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、原則8:環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、原則9:環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。

【腐敗防止】 企業は、

原則10:強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

WE SUPPORT

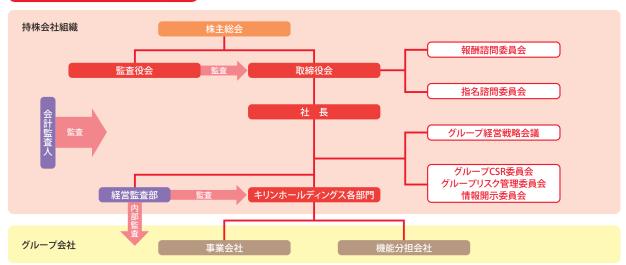
## コーポレート・ガバナンス

## コーポレート・ガバナンス

キリングループは、社内外からの信頼を得るとと もに、公正で効率的な企業経営を行うため、グルー プ全体でコーポレート・ガバナンスの強化に取り組 んでいます。2007年7月に純粋持株会社へ移行し、 酒類事業、飲料・食品事業、医薬事業等の各事業会 社や機能分担会社を並列に配した組織構造を構築し ています。

コーポレート・ガバナンス体制については、グルー プの成長戦略を実現するため、各事業会社と持株会 社との役割・責任を明確にし、事業の自主性・機動 性を強化しています。また、持株会社主導の飛躍的 な成長やグループプレミアム創出を促進する体制と し、意思決定の迅速化、経営の透明性・健全性の向 上によるグループ企業価値の最大化を図ります。ま た持株会社社長や取締役、主要グループ各社社長を メンバーとするグループCSR委員会を設置しグルー プ全体のCSR活動を統括・推進しています。

#### コーポレート・ガバナンス体制



## 内部統制システムの推進

キリングループでは、業務の適正を確保するため の体制(いわゆる内部統制システム)の大綱について、 以下の項目について取締役会で決議しています。ま た、内部統制システムの体制を着実に整備し、継続 的に改善に取り組んでいます。整備状況と課題につ いては、定期的に取締役会に報告しています。

#### 内部統制システム

- ■取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
- ■取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
- ■損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- ■取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- ■株式会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- ■監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制
- ■前号の使用人の取締役からの独立性に関する体制
- ■取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
- その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

# リスクマネジメント/コンプライアンス

## リスクマネジメントの推進

キリングループでは、2003年からリスクマネジ メントを推進しています。2008年にすべての連結 会社にリスクマネジメントシステムを導入し、キリ ングループ全体のリスクマネジメント体制を整備し ました。また、クライシス(危機)が発生した場合に、 お客様や経営への影響を最小限にとどめるために、 クライシス対応の体制も整備しています。グループ クライシス管理マニュアルに基づき、グループリス

ク管理委員会はグループ各社のリスク管理委員会と 情報を共有化し、適切な対応をするようにしていま す。

今後もリスクマネジメントによる未然防止活動に 継続して取り組んでいくとともに、クライシスの発 生時には、迅速で適切な対応ができるように体制強 化をすすめていきます。

## コンプライアンスの推進

キリングループでは、コンプライアンスをCSRの 基盤と位置付け、「法令だけでなく、社内外の諸規則・ ルール及び社会規範を遵守し、法的責任と社会が求 める倫理的な責任を果たすこと。それにより、予期 せぬ損失や信用の失墜を防止し、ステークホルダー のキリングループに対する信頼を維持向上させるこ と」と定義しています。

2008年は、グループ全体でコンプライアンスの 意識調査を行いました。この意識調査の結果を毎年 実施している集合研修のテーマに取り上げ、グルー プ全従業員で課題の改善に取り組みました。また、 グループ各社でコンプライアンスなどに関する相談

窓口(ホットライン)の整備 をしました。今後もコンプ ライアンス意識の向上と実 践に努めていきます。





## 情報セキュリティ体制の強化

キリングループでは、IT関連分野における機能分 担会社であるキリンビジネスシステムを、グループ 全体の情報セキュリティ向上の統括・推進部門と位 置付け、「キリングループ情報セキュリティ規定」を 制定し、グループ各社への監督・指導を行っていま す。キリンビールをはじめとしたグループ各社では、 各社ごとに「個人情報保護規定」および情報セキュリ ティ全般の運用ルールを定めた「情報ヤキュリティ ルール」を制定しています。

また、全従業員を対象としたe-ラーニング等の研 修を定期的に実施することにより、従業員の情報管 理意識およびスキルの向上を図っています。新たな 取り組みとして、グループ共通ICカードの導入を開 始しており、今後個人の認証の強化や入退室管理の 強化に順次活用していく予定です。このような取り 組みにより、キリングループにおける情報セキュリ ティの強化を図っています。

🚩 詳しい情報は、Webサイトでご覧いただけます。 🏬 グループ全体としての取り組み

- 🥦 クライシス発生時の心得
- コンプライアンス研修
- 🅦 クライシス管理と業務継続計画(BCP)
- 👺 コンプライアンス・ガイドライン
- 🏬 ホットライン(内部通報窓口)の整備

# お客様とともに

食の安全のために [~グループ全体の研究・分析拠点~

# 食品安全科学センターの役割

食の安全性の向上をキリングループ各社にわたり支援する「キリンホールディングス フロン ティア技術研究所 食品安全科学センター」。製品・原料の安全性を保証するための高度な分析・ 評価法を整備し、キリングループ全体の品質保証レベルを向上させています。

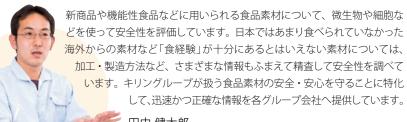
## 妥協が許されない「食の安全」のために。

お客様へお届けする商品の安全性では、少しの妥協も許されません。「食品安全科学センター」 では、多種多彩な飲料・食品を扱うキリングループ全体の品質レベルの向上や食の安全を守る ため、高度なバックアップ体制を整備しています。専門スタッフが、各グループ会社と連携し、 高精度な分析機器を駆使して、お客様に安全と安心をお届けするための研究開発に取り組んで います。また、日頃からさまざまな情報を集めて分析し、問題が起こる可能性を踏まえて研 究することで、早急な対策が取れる体制づくりをしています。食の安全に関する研究を 積み重ね、科学の力を使って見えない安全を確かなものにする。それを使命に私たちは 日々活動しています。

食品安全科学センター 田隝修

調達

## 「商品開発時の安全性の評価」が、私たちの仕事です。



田中 健太郎





#### 「食品の原材料の判別」が、私たちの仕事です。

さまざまな製品で用いられる原材料の生産地や品種などを科学的に判別 する技術開発をすすめています。例えば、緑茶葉については1年かけて膨大 な数の緑茶葉の成分を測定、解析することで、中国と日本の産地を<mark>判</mark> 別するモデルができました。世界中から原料を調達する食品会社が、 自ら科学的に原料の起源や生産地を確認できることは強みになると 思います。お客様のキリングループに対する信頼を守るため、判別 技術の開発を行っています。 服部 良太



## 「製品・原料の化学物質の定量分析」が、私たちの仕事です。

危険性や問題が指摘されている化学物質などが、微量でも原料や製品に含ま れていないかを測るのが主な仕事です。ごく微量なレベルの分析は難しく、 <mark>キリン</mark>が蓄積してきた技術や経験を十分に活用しています。一方で新たな化 学物質の出現や、法律の改正により検査対象は増加し続けており、迅速で正 確な情報の提供は常に課題となっています。そこで、学会等を通じて新た な化学物質に関する情報を収集し、問題となる前の対策に努めています。

篠原 裕之

## 「微生物の検出方法や制御方法の研究」が、私たちの仕事です。

お客様へ届く商品が、微生物的に安全であることを保証するため、原料や製品、 製造環境の微生物調査や、製造現場で使える簡便な検査法の開発、商品開 発部門と共同での製造条件の検討などを行っています。また、お客様からの で指摘に対しても、微生物の種類の特定やその安全性評価等に迅速に 対応しています。微生物の検査技術は日々進化していますので、常 に最先端の技術を導入し、知見を蓄積してより高度な保証ができ るように努めています。 草野 香里



製造

物流

販売 お客様の声









## 「お客様からのご指摘品の分析」が、私たちの仕事です。

お客様からご指摘のあった商品は、まずグループ各社が分析しますが、さら に高度な分析が必要な場合には、私たちが調査を行います。キリンでは、お 客様からいただいたご指摘を通じて、さまざまな分析データを蓄積してきま した。それらを活用することで、より迅速に分析できる体制が整っていま すが、得られた結果に対しても再度検討するなど、お客様に安全・安 心をしっかりとお伝えできるまで正確な結果を求め続ける信念でご 指摘に対応しています。 白石 圭代

## 富士山が半世紀かけて"ろ過"した水でした。~地下水の起源研究~

キリンディスティラリー富士御殿場蒸溜所が採水している地下水を三菱マテリアルテクノ 株式会社の協力を得て調査しました。地下水の安定同位体比、イオン濃度分析などと地下 水流動シミュレーションを総合的に解析した結果、標高およそ2000メートル以上の富士山 東側斜面で地下に浸透した水が、新富士火山の堆積物でおよそ50年もの年月をかけて磨 かれてきた地下水であることがわかりました。水はキリングループにとってもっとも大切 な自然の恵みです。食品安全科学センターでは、科学的視点からより高いレベルで品質を 明らかにする研究を通じて、自然のもつ力を引き出すモノづくりの技術を支えていきます。



富士御殿場蒸溜所の水源の森では水の恵み を守る活動を行っています

# お客様とともに

食の安全のために □~ビール工場の現場より~

# ビールの品質と安全のために

キリンビール横浜工場は、キリンビールの工場の中でも歴史が古く、国内最大級の 生産ができます。さまざまな製造工程の中で、すべての従業員がおいしいビールを お客様に届けるために、商品の品質と安全を守っています。

## 「お客様本位・品質本位」を実現する、誇りと責任。

キリンビールの品質保証の基本は、「お客様に安心していただくこと」にあります。そのため、 創立から現在に至るまで「お客様本位、品質本位」を貫いてきました。「工場」では、機械がビー ルを造っているイメージがありますが、機械には扱う人が必要であり、重要なのは「もっとよ いものをお届けしたい」という「モノづくり」への想いや、自分の仕事に妥協しない姿勢 です。私たちは、人の五感と三現主義を駆使し、こだわりと自信を持ってビールを製 造しています。お客様に「おいしい」と笑顔で言われたときは、私たちにとって大きな 喜びであり、誇りと責任感につながっています。 副工場長 右衛門佐憲



ビールづくりの根幹ともいえる醸造部門は、ビールの品質管理・工程管理を行っています。 工程での異常の早期発見や、さまざまな課題解決が仕事です。たとえば、原料の品質は 季節による気温や湿度の違いで、原料の品質には若干の変化が起こります。その変化 による香味の違いや分析値の変動を工程へフィードバックし、一年を通じて変<mark>わらな</mark> い味を提供できるよう、管理しています。また、官能評価の結果を受け、品質基準 の条件調整を行っています。今より、さらにおいしいビールをつくりだすために、 全国の工場とも情報交換し、技能の向 ーつひとつの工程を自分の五感でチェックし、お客

菅原 徹也

課題が解決され、さらに良 いものをお客様にご提供 できる環境ができたときは うれしいですね

野口健治



上や伝承にも取り組んでいます。

仕込釜の状況を一つひとつ確認しています。



コントロールルームにて、各工程状況や分析値を 監視しています。



よい商品を届け続けるため、日々しっかりライン を確認しています。



試飲室で、認定試験に合格したパネラーが、日々 官能検査をしています。



試験室で、機器と人の五感で、最終チェックをしています。



試験室にて、ビール中の苦味・色度等を検査しています。

#### お客様にお届けする商品の顔を守っています。

商品の顔であるパッケージの品質管理、オペレーションなどを担当しています。缶の胴体部分は、100ミクロンと薄くデリケートなため、小さな傷も見逃さない厳しい検査を行います。びんはリターナブル容器ですので、洗浄と殺菌の後、自社開発の検査機でチェックして、びん詰めを行います。お客様の第一印象になる外装の「外観品質」には、特に厳しい検査と管理を行います。ラベルなどは検査機チェックとともに、私たちが視認と触診で検査をします。人が確認し、納得した商品をお客様のお手元にお届けしています。

パッケージという商品の顔を作っていることもあり、 高い外観品質は、私にとってこだわりと誇りです

松本 浩史





パッケージ

物 流







## 最後まで最善をつくし、お届けしています。

私たちは、安全・安心な商品をお客様にお届けするため、品質を保証するための分析を行っています。仕込み・発酵・貯蔵・ろ過・パッケージング等、あらゆる工程での微生物や苦味、色、アルコールなど、品質に関する分析は多岐にわたります。横浜工場の商品出荷にあたって、常に私たちが最後の砦という意識を持ち、迅速・正確なデータの提供を心がけています。醸造担当やパッケージング担当等、場内で緊密な協力体制をつくり、お客様にビールをおいしく飲んでいただくために、日々最善を尽くしています。

お客様に届いた商品に対する責任を感じながら、常にお客様のことを考えた仕事を心がけています

峯岸 亜希子



# 品質向上への取り組み

## キリングループの品質への取り組み

キリングループでは、お客様本位、品質本位の価 値観のもと、さまざまな取り組みをすすめています。

商品開発から販売まで、一貫した品質保証体制を 所管する品質総括責任者の設置等グループ品質保証 組織を継続し、グループ内外の事故・トラブルの適 正評価を行い、新規分析法の開発、評価体制の見直

し、グループ品質基準類の改定へ反映させるなど、 つねにお客様本位、品質本位を体現することを重視 しています。2008年は、原材料・仕入品サプライヤー に起因する等の3件の社告回収がありましたが、グ ループ各社の再点検や監査により、品質事故の未然 防止にさらに努めています。

## 各社における品質への取り組み

グループ各社では、品質保証向上のしくみの進化、 商品品質向上の取り組みを行ってきました。

キリンビールでは美味しいビールづくりのため、 麦芽を厳選するための新たな分析法「オートキュー ベット法」をキリンホールディングスの研究所と共 同開発し、特許出願中です。また、キリンビバレッ ジからの清涼飲料受託ラインすべてでHACCP取得 も完了しました。メルシャンでも本社部門も含め統 合した全社的なISO9001認証をめざして運用をはじ め、食品製造を行うグループ各社、ISO9001認証、 運営の基盤整備ができています。

キリン協和フーズでは、2008年にうまみ調味料 の海外生産を開始しましたが、生産開始と同時に各 種品質保証等の認証(ISO9001、ISO14001、AIB、 KOSHER、HALAL)を取得しました。

各社の品質に関する受賞 グループ会社の商品が、その品質の高さを評価されてさまざまな賞を受けています。

#### シャトー・メルシャンシリーズ

シャトー・メルシャンシリーズなど5品種が、第6 回「国産ワインコンクール」で最高カテゴリー賞、 金賞を受賞しました。なかでも、『シャトー・メ ルシャン 桔梗ヶ原メルロー 2003』は、最優秀力 テゴリー賞と金賞を同時受賞しました。



「ナガノトマト 信州牛まれの おいしいトマト(食塩無添加)」(左)と 「信州産トマトケチャップ特級」(右)

#### ナガノトマト商品

ました。

ナガノトマトでは、「特選なめ茸茶漬」がモンドセ レクション最高金賞受賞を継続しています。また、 2008年は、トマトジュース新商品「ナガノトマト 信州生まれのおいしいトマト(食塩無添加)」が、 農林水産大臣賞を受賞。さらに、「信州産 トマ トケチャップ特級」が日本缶詰協会長賞を受賞し

**・** ナガノトマ

🧦 キリングループの品質マネジメント

# お客様満足の向上

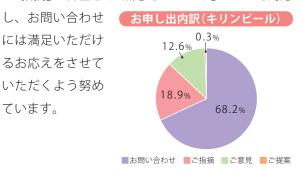
## お客様相談窓口

2008年は、お電話や電子メールなどによってキ リンビールには約38,000件、キリンビバレッジには 約40,400件、メルシャンには約6,400件のお申し出 をいただきました。2007年に比べキリンビールと メルシャンがわずかに減少、キリンビバレッジは2 割ほど増加しています。

お申し出の内訳をみると、商品やキャンペーン、 取扱店の情報を中心とした「お問い合わせ」が各社と も全体の約7~8割を占めており、「ご指摘」は各社と も2割弱となっています。なかでも、キリンビール

では「ご意見・ご感想・ご要望」が前年比2割増となり、 増加傾向にあります。お客様相談窓口にいただいた 「ご指摘」は各社とも「誠意とスピード」をもって対応

には満足いただけ るお応えをさせて いただくよう努め ています。



**基本的改善事例** お客様からのご意見を、商品の開発や改善・リニューアル等の参考にしています。

#### 栄養成分表示の切替

#### キリンビール

1999年以降、一部商品への栄養成分表示を開始し、 ビール・発泡酒・新ジャンル・清涼発泡飲料およ びチューハイの主要缶容器に、1缶当たりの栄養 成分を表示してきました。近年、高まる健康志向 を背景に、お客様からは「100ml当たりの表示の方 が比較しやすい」といったご要望をいただくよう になり、従来の「1缶当たり」から「100ml当たり」へと、

より栄養成分が比較 しやすいような表示 に変更しています。





キリンビバレッ?

「小岩井無添加野菜」をご愛飲のお客様から「残量 がどのくらいなのかわかりにくい。何度かに分け て時間をかけて飲む大型容器なので気になる」と

のご意見をいただき、 PETボトルに残量がわか る透明ラインを設けま した。

透明ラインを設置



透明ラインを設けた 「小岩井無添加野菜」

## 工場見学

キリンビール全国11の工場、キリンディスティラ リー富士御殿場蒸溜所、メルシャン勝沼ワイナリー・ 軽井沢ウイスキー蒸留所、キリンビバレッジ湘南工 場・舞鶴工場では工場見学を実施しています。ガイ ドの案内のもと、製造工程の見学等により、さまざ まなコミュニケーションを図っています。「ビール セミナー」「紅茶セミナー」の他、環境について大人 も子供も楽しく学べる「エコブルワリーツアー」(キ

リンビール)、「夏休み環境教室」(キリンビール、キ リンビバレッジ)なども実施しています。



夏休み環境教室

🚩 詳しい情報は、Webサイトでご覧いただけます。 🏬 お客様満足度調査

# 得意先・取引先とのかかわり

## 得意先との取り組み

キリングループでは、安全、安心な商品の提供に とどまらず、商品の新しい楽しみ方や、興味を引き 出すといった価値を提案する企業として、高く評価

していただくことをめざしています。お客様に喜ん でいただけるよう、得意先や自治体とも協力しなが らさまざまな活動をしています。

#### キリン・ドラフトマスターズ・スクール キリンビー

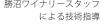
料飲店でお客様においしい樽詰牛ビールを提供し ていただくために、業界にさきがけて1993年にス タートし、受講者は約27万人を超えました。全国 14カ所にある常設校のほか、「出張講座(ドラフト トレーニング)」も随時開催しています。全国で樽 詰生ビールの達人「ドラフトマスター」が樽詰生 ビールの「おいしい、楽しい、うれしい」をお客様 にお届けしています。

> 「ドラフトマスターズ・ スクール」の様子

## ぶどう産地の塩尻市で産学連携 メルシャ

メルシャン勝沼ワイナリーでは、ワイン醸造の授 業を実施している塩尻市の学校と2008年11月に産 学連携の協定を締結し、講師の派遣を開始しまし た。醸造やワイン分析、ぶどうの剪定などの技術 を指導することで、ワイン産業を担う人材育成へ の協力を行います。

勝沼ワイナリースタッフ



## 取引先とのかかわり

#### CSR調達推進のために

キリングループでは、2006年4月に「CSR調達ガイ ドライン」を制定。これに基づいた「お取引先説明会」 を年に1度開催し、キリングループのCSR調達への 理解と遵守をお願いするとともに、適時調査を行い、 CSR調達の実効性を高めています。

2008年は、新規取引先168社についてはCSRアン

ケートを実施した結果、是正をお願いした企業はあ りませんでした。既存取引先136社についてはCSR 調達の状況を確認するため、視察を行いました。

また、従業員に対しては、全従業員対象のWeb 研修の実施やグループ各社の調達担当者対象の研 修・担当者会議を実施し、CSR調達の周知徹底に努 めています。



## キリングループに期待すること

品質方針や品質マネジメント、工場での品質管理・工程管理による実践、品質 を支える食品安全科学センターの活動などによって、また取引先とともに、品質 向上に取り組み、消費者の品質や安全への期待に応えている様子が伝

> わってきます。Webサイトとの連動による情報提供も信頼につなが ります。今後、(1)毎年の取り組みを目標・実践・課題として開示 する、(2) 社告回収など問題発生時における品質向上への反映内 容を示すことによって、信頼と安心感が高まると思われます。

> > (社)日本消費生活アドバイザー・ 古谷 由紀子 様 コンサルタント協会 常任理事



## ご意見をいただいて



いただいたご意見に沿って、「食の安全・安 心」のための施策を通じ、さらなるレベル アップを図っていきます。そして、これま で以上にその取り組みをお客様へ情報提 供することにより、キリングループへの安 心、信頼に応えていきたいと考えます。



🔁 詳しい情報は、Webサイトでご覧いただけます。 🧱 調達の基本方針

🧱 CSR調達ガイドライン

# 食文化への取り組み

## キリン食生活文化研究所

「食と健康」領域で事業を展開するキリングループは、食環境の未来を考え、食をとりまく「ライフスタイル提案」や、次世代の「食を楽しむ力」を養うプログラムの実施をめざして、2007年7月キリンホールディングスに「キリン食生活文化研究所」を設立しました。

子供たちに、生きるうえで大切な「食」への関心を 喚起し、家庭でも「食」について考えるきっかけを提 供するために、2008年から「食」に関する体験型プログラム"キリンおいしい学校"を実施しています。

また「食と健康」のよろこびを広げ、お客様の「うるおいのある食卓」を実現するために、今後ホームページを通じてライフスタイル提案を行っていく予定です。

「食環境の未来」を考える活動の一環としては、これからの日本を支える大学生に対して、「食」に関わ

るさまざまな分野の専門家とともに「持続可能な食」への貢献方法と、日本発の21世紀型の「食ライフスタイル」を探索するプログラム"「食」を考えるKIRIN・東京大学パートナーシッププログラム"を実施しています。

第1回キリンおいしい学校「〜おいしさをつくる技術"発酵"〜発酵は小さな生き物からの贈り物だったんだ!」



「食」を考えるKIRIN・東京大学パートナーシッププログラム キックオフ・シンポジウム「駒場で『食』を考える」

## ビール文化への取り組み

キリンビールでは、ビール文化の振興をめざし、さまざまな活動を提供しています。ビールの楽しさ・奥深さをわかりやすくお話しする「ビールセミナー」や、歴史・文化を紹介する展覧会などを全国の工場で開催しているほか、Webサイト上でも「キリンビール大

学」などのサイトを通じて発信しています。

さまざまな視点からビールの 魅力に迫るビールセミナー



## ワイン文化への取り組み

メルシャンでは、フランスの大手シャンパンメーカーであるポメリー社と共同で、1993年より日本の若手ソムリエの育成を目的として「ポメリー ソムリエ スカラシップ」を実施してきました。2002年からは世界に通用するソムリエ、シャンパンのスペ

シャリストの育成を 目的に、「キュヴェ・ ルイーズ・ポメリー ソムリエ コンテスト」 を実施しています。



第7回コンテスト (2008年) に入賞したソムリエ

## 紅茶文化への取り組み

キリンビバレッジでは、幅広いお客様に紅茶を楽しんでいただけるよう紅茶セミナーを開催しています。紅茶の文化や歴史に触れるだけではなく、おもてなしの心や紅茶と食べ物の相性など、新しい紅茶文化の発信に努めています。また、Webサイト上でも

「キリンビバレッジの 紅茶文化」を通じて、 紅茶のアレンジレシピ を紹介しています。



紅茶研究家・磯淵猛氏を講師に迎えた 紅茶セミナー

# 低炭素企業グループをめざして

キリングループは経営理念に掲げている「自然と人を見つめるものづくり」を実践し、 低炭素社会づくりに貢献していきます。持続可能な社会の一員として、 グループ全体で地球温暖化防止ならびに自然との共生の取り組みを継続します。

## 先進的であり続けるために「エコ・ファーストの約束」

2008年6月、キリンビールは「エコ・ファースト 企業」の認定を受けました。これは、環境省が創設 した業界トップランナー企業による環境保全活動を さらに推進していくための制度で、同制度の製造業 における第1号として、「エコ・ファーストの約束」 を環境大臣に宣言しました。2008年は、容器包装 開発をはじめ、環境保全の地道な活動や工場のCO2 削減の成果など、数々の表彰を受賞しました。これ からも先進的であるために、長期的な観点でさまざ まな施策を実行していきます。

## キリンビールの「エコ・ファーストの約束」

- ■容器包装の3R(発生抑制、再使用、再生利用)を適正 かつ積極的に推進します。
- ■再資源化の取り組みを積極的に推進します。
- ■地球温暖化の防止に向けた取り組みを積極的に推進し ます。
- ■全国の工場の水源地を守る取り組みを積極的に推進します。 上記の先進的な取り組みを一層強化していくことを約束するとともに、定 期的な公表および環境省への報告を行っていきます。

## 主な受賞(2008年)

第47回ジャパンパッケージングコンペテ ション「経済産業大臣賞」(2008年4月)



パッケージング研究所開発の「麒麟本格焼酎タルチョ」紙パッ ク容器。アルミレス、透明外装フィルムレスなど環境負荷低 減とPPリング付きの安全設計を実現した新しい提案への評価。 ※PP: Pilfer Proof(いたずら防止)。商品の開栓が外観から確認できるキャップ

海をきれいにするための一般協力者の奉 仕活動表彰「国土交通大臣賞」(2008年7月)



仙台工場が1983年から継続している蒲生干潟での清掃活動。 地域と協力した長年にわたる活動への評価。

「平成20年度地球温暖化防止環境大臣表彰」 (2008年12月)



福岡工場「21世紀型グリーンファクトリー実現」の取り組み。 2007年のCO2排出量を2003年比で約50%削減、筑後川水源保 全のための植樹活動、「キリン花園」の一般開放など、多様な 活動への評価。

## 泡とCO<sub>2</sub>

ビールの泡はCO2です。オオムギは、大気中のCO2と光エネルギーにより、 光合成をします。オオムギを使って発酵させると、エタノールとCO₂が発 生するという循環です。

光合成の式

【6CO<sub>2</sub> + 12H<sub>2</sub>O + 光エネルギー→C<sub>6</sub>H<sub>12</sub>O<sub>6</sub> (グルコース) + 6H<sub>2</sub>O + 6O<sub>2</sub> ↑】 発酵の式

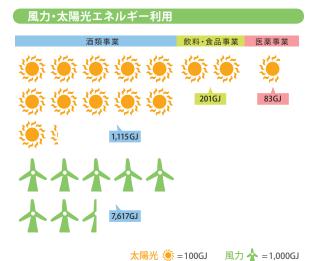
【 $C_6H_{12}O_6 \rightarrow 2C_2H_5OH$  (エタノール) + **2CO**<sub>2</sub>】 泡の爽快なおいしさは、炭素循環の恵みです。



## グループ全体で取り組む「地球温暖化防止への取り組み」

2009年よりグループ全体で「低炭素企業グループ の実現」をテーマに掲げアクションを開始します。 国内外のキリングループ各社のCO<sub>2</sub>排出量は、グラ フのとおりです。国内の各事業では、太陽光・風力 等、新エネルギー利用を開始しています。





## ロジスティクスがリードする「サプライチェーンの取り組み」

日本は、京都議定書の目標である温室効果ガス排出量1990年比マイナス6%の目標に向け、さまざまな取り組みをすすめています。国内統計によると、運輸部門のCO<sub>2</sub>排出は約2割を占めています。効率的な物流によるCO<sub>2</sub>削減はメーカーとしての社会的責任です。キリングループでは、共同配送・トラックの積載効率向上・モーダルシフトの3本柱で物流CO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。

## グループ全体でCO2削減

キリンビバレッジは2006年「エコレールマーク」認定企業に選ばれ、積極的にモーダルシフトを推進しています。2008年は鉄道コンテナ\*約48,000基を使用

したことにより、トラック輸送する場合に比べ、CO2排出量を約82%削減しました。今後も、スマート物流の実現に向け、モーダルシフトやグループロジスティクスの取り組みを強化していきます。
キリンビバレッジ株式会社 田中 文敏

※5tコンテナ基数として日本通運株式会社の算出値

# 物流CO₂削減の三本柱 モーダル シフト 28,210トン 合計 29,500トン CO₂削減

#### 競合他社との連携も

キリンビール、キリンビバレッジ、メルシャン相 互が連携するグループロジスティクスを推進して います。お取引先様にご協力いただき、きめ細か く発注の調整をした結果、トラックの積載効率が 向上し、大きなCO<sub>2</sub>削減効果が出ました。2008年 はビール業界としては初の取り組みとし

て、サッポロビールとの共同配送を北 海道で開始しました。市場の競争相手 と環境面では協調し、より高い削減目 標にチャレンジします。

キリンビール株式会社 SCM本部SCM推進部 平井 努

# グループ環境マネジメント

## キリングループ環境方針

1998年に制定したグループ環境方針を2008年10月改訂しました。環境対策と環境価値提案についてグルー プ全員参加で取り組んでいます。

#### **キリングループ環境方針**

「食と健康」を提供するキリン グループは、すべての事業の 低炭素化に努め、環境保全の 取り組みを実践するとともに、 お客様への環境価値提案を通 して、自然と共生した豊かな 社会の実現に貢献します。

#### **(** 行動方針

- ①バリューチェーン全体および、事業活動 のあらゆる側面で実行する。
- 2アセスメントと監査で活動を保証する。 を基本的考え方とし、トップのリーダー シップと従業員の全員参加により、環境施策 を経営に内在化させ、経営の最高課題の1つ として高い目標を設定して取り組みます。



## 環境マネジメントシステム

環境マネジメント (EMS) の国際規格ISO14001に より、環境経営を確実に推進しています。キリンビー ル北陸工場は、1997年に国内食品業界で初の認証 を取得し、ビールおよび飲料・食品、医薬工場での

認証取得を推進してきました。経営課題として環境 施策の実行のため、事業所単位から会社全体のEMS 構築により、事業活動のあらゆる側面の環境活動へ とレベルアップを図っています。

## **環境マネジメントシステムの進展**

生産拠点	<b>1997年~</b> 気ISO14001取得の推進		2000年~ 生産拠点・非生産拠点への拡大		<b>2008年~</b> EMSの充実
1997年3月	キリンビール北陸工 場が食品業界(国内) で初の認証取得	2000年	キリンビール新川本社、キリンディスティラ リー富士御殿場蒸溜所、キリンビバレッジ湘南 工場、キリンエンジニアリング本社が認証取得	2008年6月 2008年10月	<b>キリンビール統合認証</b> を取得 キリンホールディングス・キリン ビジネスエキスパート・キリンビ
1998年	キリンビール栃木、名 古屋、滋賀、福岡、神 戸、千歳、取手工場が 認証取得	2001年	協和発酵キリン高崎工場、小岩井那須工場、キリンテクノシステム本社・京都工場が認証取得ナガノトマト松本工場、キリンヤクルトネクストステージ佐野工場・真玉工場が認証取得	2008年12月	ジネスシステム・キリンリアルエステート4社による自己宣言型 ISO14001構築 キリンビバレッジ本社認証取得
1999年	キリンビール仙台、岡山、横浜工場、キリンビバレッジ舞鶴工場、小岩井乳業小岩井工場が認証取得	2004年 2005年 2006年	キリンテクノシステム横浜工場が認証取得 ナガノトマト本社工場、小岩井乳業東京工場、キ リンフードテック高砂工場が認証取得 協和発酵キリン高崎工場・医薬生産技術研究所 として認証取得。ナガノトマト本社認証取得。	2009年5月	協和発酵キリン統合認証取得

## 環境法令遵守・リスクマネジメント

2008年は、キリングループでの環境法令・規制 違反はありません。環境研修を通じ、リスクマネジ メントを推進しています。



🔰 詳しい情報は、Webサイトでご覧いただけます。

- グリーン調達方針
- 🎉 環境への取り組みの歴史
- 🚂 環境研修
- **サイトデータ**

#### 環境報告の集計について

対象期間: 2008年1~12月。事業年度が異なる会社は※を付記し、直近の年 間値として集計しました。

対象範囲:キリンビール (11 工場、本社・8 統括本部、2 研究所)、キリンディス ティラリー (蒸溜所)、永昌源 (1工場)、キリン物流 (本社、7支社)、キリンテク ノシステム、キリンエンジニアリング、キリンシティ (本社・35店舗)、メルシャン (7工場、3研究所、本社・2統括本部、関係会社)、キリンビバレッジ(2工場、 本社・7地区本部、グループ事務センター)、小岩井乳業 (3工場)、ナガノトマト (2工場)、キリンフードテック(1工場)、※協和発酵キリン(5工場・研究所: 2007年4月1日~2008年3月31日、エネルギーデータのみ2008年1~12月。 協和発酵キリン子会社については協和発酵キリングループ・サスティナビリティ レポートをご覧下さい)、※ライオンネイサン(5工場、19倉庫、74営業所ほか: 2007年10月~2008年9月)、※ナショナルフーズ(20工場、本社:2007年7月 ~ 2008年6月)、キリンアグリバイオ (研究所)、キリンホールディングス (本社、

## エコバランス

事業活動における環境負荷低減のため、各事業の環境影響を把握しています。ここでは酒類事業、飲料・ 食品事業、医薬事業の各事業の環境に与える影響を示します。



※国によりエネルギー換算の方法は異なります。

## 環境会計

キリングループでは、環境経営の一環として、環境会計を開示しています。

2008年は、環境投資として約20億円、環境費用として約107億円の支出を行いました。

(単位:百万円)

	投資額			費用額		
刀 規	2006年	2007年	2008年	2006年	2007年	2008年
生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷抑制のための 環境保全コスト(下記①②③の計)	1,973	2,846	2,057	8,512	8,503	9,423
①公害防止コスト	1,201	1,120	1,199	3,471	3,582	3,709
②地球環境保全コスト	421	1,531	784	1,564	1,557	1,837
③資源循環コスト	360	193	73	3,476	3,387	3,878
上下流コスト	0	0	0	30	39	27
管理活動コスト	1	14	15	413	563	534
研究開発コスト	0	0	0	60	58	363
社会活動コスト	16	22	1	497	640	438
環境損傷対応コスト	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
計	1,999	2,880	2,073	9,511	9,826	10,785

※前職: 12007年1~12月/キリンホールディングス (本社・研究所)、キリンピール (全工場・本社・研究所・統括本部)、キリンピパレッジ(全工場)、キリンファーマ<sup>\*</sup> (工場・研究所)。 2008年1~12月/キリンホールディングス (本社・研究所)、キリンピール (全工場・本社・研究所・統括本部)、キリンピパレッジ(全工場)、2007年4月~2008年3月/協和発酵キリン(単社) (全工場・本社・研究所)。

※2008年10月、協和発酵とキリンファーマは統合し、協和発酵キリンになりました

# 低炭素社会への取り組み

## 生産活動における取り組み

キリングループの製造系会社は、エネルギー転換 やコジェネレーションにより省エネルギーの取り組 みをすすめてきました。酒類事業、飲料食品事業と もに、エネルギー使用量は減少しましたが、医薬事 業は協和発酵キリン発足による事業拡大により、増 加しました。

#### 事業別エネルギー使用量推移 ■ 電気 2007年 ■ A重油 2008年 ■都市ガス ■ LPGガス ■石炭 2007年 ■ 軽油 ■灯油 2008年 ■ ガソリン ■購入蒸気 2007年 2008年 2,000 4,000 6,000 8,000

## 調達活動における取り組み

2008年は、資材の共同調達による環境負荷低減の取り組みをすすめました。キリンビールが先行使用している缶蓋口径の小さい「204径缶」をサントリーも採用し、缶蓋の規格統一のための技術サポートをしました。「206径缶」に比べ、アルミニウム使用量を13%削減しているため、共通化でCO2低減がよりすすみます。今後も、「競争と協調」の視点で、低炭素社会づくりに貢献する調達に取り組みます。



キリンビールと サントリーで 規格統一した 「204径」の缶蓋

## 物流における取り組み

キリングループには「エネルギーの使用の合理化に関する法律(改正省エネ法)」での特定荷主\*に該当する企業が3社あります。2008年の特定荷主としての総輸送量は約1,643百万トンキロ、CO2排出量は142千t-CO2です。物流拠点見直しや共同配送等により、CO2削減を着実に実行していきます。

※特定荷主:改正省エネ法により、経済産業大臣が指定する自らの貨物の輸送量[トンキロ]の合計が年間3,000万[トンキロ]以上の荷主。年1回の定期報告提出が義務付けられています。

## 

#### 地球温暖化と作物

ヨーロッパの著名なブドウ産地が地球温暖化の影響を受けているという ニュースがあります。ビールに欠かせないホップも同様で、チェコでは品 質や収量を保つため灌漑などの対策をとっているそうです。ドイツ、イギ リスの研究機関は、耐暑性ホップ品種の開発のため、トルコや南アフリカ の野生種の探索を開始しています。

(Mindfood, May, 2008)



Column

## 営業活動における取り組み

営業活動の環境負荷低減のため、営業車両や販売 機器・ツール等でさまざまな取り組みをしています。 協和発酵キリンは2010年に営業車の低排出ガス車 両化100%を目標に更新をすすめ、2008年、99.6% に達しています。アイドリングストップや発進時の ふんわりアクセル「eスタート」などエコ運転にも取 り組んでいます。



営業車用アイドリングストップ啓発シール

## オフィスにおける取り組み

2008年に、キリンホールディングス本社では来 客用スペースまでのエスカレーターを人検知型機種 に交換しました。無人運転での電力を削減し、年間 約35%の省エネ効果になります。近隣階の移動にエ レベーターを使わず健康のためにも階段を使う「2 アップ2ダウン」の呼びかけもしています。

キリンビジネスシステム主導によるワーキングス タイル変革の一環で、グループでのテレビ会議利用 がすすみました。グループ全国会議の約180回に担 当者が本社に集まると仮定して、出張に要するCO2 排出量は115tと試算\*されます。



エレベーターホールに貼られ た2アップ2ダウンの表示



テレビ会議利用の様子

※国土交通省資料(鉄道19g-人/km、飛行機109g-人/km)。北海道、九州から東京は 飛行機、本州内は鉄道移動とし、出張でのCO2排出量645g/全国会議とした試算。

キリングループには環境配慮の実績があるが、今回のレポートでは、あらため て低炭素企業グループとして取り組むことを宣言し、海外を含めた開示に

なった。今後の注目点は、グループに入った海外の企業であ る。立地条件が違えば、優先すべき課題が違う。地球環境に ついての基本的な合意がどのような形で進展するだろうか。 2009年版では、コラムなど読みやすさへの工夫がされている。



#### **♪ ご意見をいただいて**



海外グループ会社においても、ISOに準拠 してPDCAを回し、環境レポートを開示し ています。環境情報の交換により、当事国 の課題について理解を深め、地球環境対策 についてもグループシナジーを発揮した いと考えています。

国際連合大学名誉副学長 東京大学名誉教授

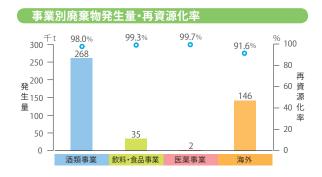
安井 至 様

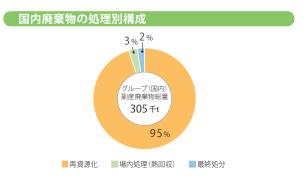
# 循環型社会への取り組み

## 副産物・廃棄物の再資源化

キリングループは主に農産物を原料とし、酒類・飲 料・乳製品などを製造しています。製造工場は工程か ら出る仕込粕、余剰酵母、茶粕、コーヒー粕、トマト粕、 ろ過材などさまざまな副産物や廃棄物を埋め立て処理 せず、再資源化する努力を続けています。物流、外食

サービスを含む酒類事業の再資源化率は98%ですが、 ビール等酒類や飲料の製造工場は1998年以来、再資源 化率100%を継続しています。2008年は、処理委託先 の契約チェックや定期監査、工場間の相互監査など廃 棄物管理のガバナンスを強化しました。

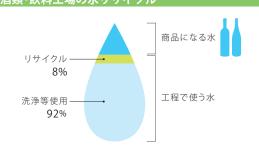




## 水資源の保全

酒類や飲料の製造では製品になる水と、装置や容 器の洗浄・冷却等の工程で必要な水とがあります。 酒類・飲料の生産工場では高度な水リサイクルシス テムを導入し、用水原単位の削減に努めてきました。 今後も、グループの工場では貴重な水資源の循環の ため、節水・洗浄水リサイクル使用、排水処理の安 定化や高度化について、さまざまな取り組みを続け ていきます。

## 酒類・飲料工場の水リサイクル



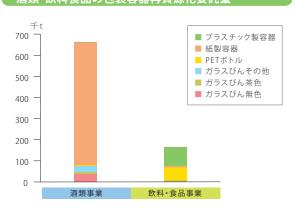
酒類:キリンビール、キリンディスティラリー、永昌源、メルシャン 飲料:キリンビバレッジ、小岩井乳業

## 容器リサイクルの推進

酒類や飲料はびん、缶、ペットボトルなどさまざ まな素材の容器に詰められて商品になります。使用 容器素材ごとのリサイクル品質の高度化や再生品市 場開発などは、業界全体として取り組まなければな らない課題です。容器包装リサイクル法\*への対応 として、使用実績に基づき再資源化のための委託費 用を分担し、排出者責任を果たしています。2008 年のグループでの委託費用は約5.3億円でした。

※容器包装リサイクル法での再商品化義務の対象:ガラス製容器、紙製容器包装、PET ボトル、プラスチック製容器包装。アルミ缶、スチール缶、段ボール、飲料用紙パックは再商品化義務の対象外で、市町村が有価で販売するなどで再資源化されています。

## 酒類・飲料食品の包装容器再資源化委託量



# 自然共生社会への取り組み

## 生物多様性の保全

## 事業と生物多様性

キリングループは主に農産物および農産物加工品 を原料として購入し、生産活動を行っています。酒 類の主原料であるオオムギ、ホップ、ブドウ、イモ、 コメは枯渇性資源ではありませんが、気候変動との 関係から生産地移動や収穫動向に注意していく必要 があります。飲料の主原料のチャ、コーヒーも同様 です。発酵に用いる酵母、乳酸菌など微生物やアグ リバイオ事業での花、バレイショなど植物遺伝資源 は適正なルートで入手し、管理をしています。

#### おもな遺伝資源

		遺伝資源	保有数	備考	
酒類事業	酵母	醸造用酵母 (Saccharomyces cerevisiae)	1,500種	キリンビール、 メルシャン	
但叔尹未	植物	ブドウ (Vitis spp)	12品種	メルシャン	
飲料食品 事業	植物	トマト (Solanum lycopersicum)	2,000系統	ナガノトマト育成 系統として記載	
アグリバ イオ事業	植物	キク (Chrysanthemum)	200品種		
		バラ (Rosa)	138品種		
		カーネーション (Dianthus)	90品種	国内登録品種数 として記載	
		ペチュニア (Petunia hybirida)	21品種		
		バレイショ (Solanum tuberosum)	17品種		

## 未来の地球環境のために(技術開発)

2008年の環境に関する技術開発では、生分解性 プラスチックとバイオエタノール生産の分野で進展 がありました。キリンホールディングス フロンティ ア技術研究所は、グルコースから生分解性プラス チックの原料であるL-乳酸を世界最高の効率と純 度で産生する酵母を作出しました。

キリンビールは農林水産省の国家プロジェクトに 参画し、発酵バイオ技術を活かしてバイオエタノー ルプラント開発を担当しました。2009年3月、本プラ ントが稼動し、日本の「京都議定書目標達成計画」に おけるバイオマス由来燃料利用の推進に貢献します。

キリングループは容器包装の軽量化で業界をリー ドし、数々の表彰を受賞しています。ジャパンパッ ケージングコンペティション経済産業大臣賞は 2007年、2008年と連続受賞をしています。







バイオエタノール製造施設

#### 「キリン」の多様性

キリンビールのマークの麒麟は中国の伝説上の動物です。実在するキリ ンはキリン科キリン属 (Giraffidae Giraffa)のGiraffa cameloparadalisの一 種と考えられており、国際自然保護連合(World Conservation Union,IUCN) の絶滅リストで、キリンの絶滅リスクは低いとされていまし た。しかし、最近の研究でキリンは複数の亜種に分化していること、そ してアミメキリン (reticulated giraffes)、ナイジェリアキリン(Giraffa cameloparadalis peralta)、ロスチャイルドキリン(Giraffa cameloparadalis rothschildi) など、いくつかの亜種は密猟や紛争の影響で絶滅の危機にさ らされていることが明らかになりました。自然保護関係者は、「キリンは 亜種ごとに保護する必要がある」と訴えています。

(BMC Biology 5,2007)





## 地域の自然を豊かに

酒類・飲料食品・医薬の工場は衛生的であること はもちろん、周囲の景観、自然との調和も大切です。 工場構内の整備にとどまらず、たいせつな地域種を 保全し、豊かな環境の大切さを見学者に伝える活動 をしています。



協和発酵キリン富士工場

#### 希少種保全活動

群	科	種	環境省レッドリスト	事業所
	コイ科	カワバタモロコ (Hemigrammocypris rasborella)	絶滅危惧 I B類	キリンビール神戸工場
汽水淡水魚類	ドジョウ科	アユモドキ (Leptobotia curta)	絶滅危惧 I A類	キリンビール岡山工場
	ドジョウ科	スジシマドジョウ小型種山陽型(Cobitis sp)	絶滅危惧 I B類	キリンビール岡山工場
両生類	アカガエル科	ダルマガエル (Rana porosa brevipoda)	絶滅危惧    類	キリンビール岡山工場
維管束植物	ラン科	マヤラン (Cymbidium macrorhizon)	絶滅危惧 I B類	キリンビール神戸工場
群	科	種	IUCNレッドリスト	事業所
維管束植物	ゴマノハグサ科	Mazus novaezeelandiae	vulnerable	ライオンネイサン Wither Hill Winery

<sup>\*</sup>International Union for Conservation of Nature

## 水の恵みを守る活動

工場の上流域にある「キリン水源の森づくり」と、 地域の森林保全活動を20都道府県で行っています。 2008年は、水源の森や里山の森活動にグループ従 業員約2,700名が参加し、1999年からの参加者の累 計は12,000名を超えました。麒麟啤酒(珠海)有限公 司も植樹をし、活動の輪が広がっています。海岸、 干潟、河川、湖沼など多様な生物が生息する水辺で

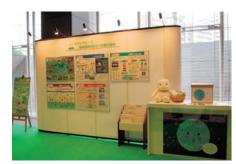
の清掃活動も地域と共 同して継続しています。 今後もこれら環境保全 活動や支援活動を継続 し、地域との絆を深め ていきます。



珠海工場の植樹活動

## 環境コミュニケーション

グループ各社は環境報告書の作成・配布や環境へ の取り組みをWeb公開しています。環境月間では、 本社ロビーに環境パネルなどの展示をし、来社され たお客様にも「めざせ! 1人、1日、1kg CO<sub>2</sub>削減」の 「私のチャレンジ宣言」に参加していただきました。



環境展示

#### キリングループに期待すること

飲料の命は水です。そのことをしっかりと踏まえて環境対策が練られている ようで、好感が持てます。水資源を守る取り組みのひとつ、「水源の森づくり」

> は高く評価したいと思います。事業の遺伝資源から地域種まで 生物多様性を尊重している姿勢も評価できます。今後、主原料 の入手先の多様化を図るなどして、特定の種や品種への集中が 過度にならないよう配慮されるとよいと思います。

人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 副所長 教授 佐藤 洋一郎 様

## ご意見をいただいて



水と生物多様性は、事業の源泉と認識して います。"自然と人を見つめるものづくり" を継続するためには、ご意見のとおり資源 利用のバランスが大事です。自然との調 和を考慮し、今後も、全員参加で環境活動 を充実・発展させていきます。

# アルコール関連問題への取り組み

## アルコール問題に対する基本方針と考え方

アルコール飲料を製造・販売する企業の社会的責任として、「適正飲酒」の推進や「未成年者飲酒・飲酒運転・イッキ飲み」など問題飲酒撲滅の徹底に向けて、 啓発活動を継続的に実施しています。

問題飲酒の防止には、アルコールという飲み物の 特徴・身体に与える影響などについて正しい知識を 幅広く普及・啓発することが重要です。そのために、 行政・医療・教育・企業が連携して、地域全体で問 題飲酒をさせない風土を作っていく必要があります。

料飲店への「飲酒運転・未成年者飲酒防止」ポスター・ステッカーの配布や店頭試飲会の中止、広告

での警告メッセージの発信などさまざまなサポート を行うほか、キリングループ全体で社内教育啓発に も力を入れています。

## ノンアルコール・ビールテイスト飲料 「**キリン フリー**」発売

車の運転前などアルコールを摂取できないときにも、安心して飲める「キリンフリー」を通じて、飲酒運転防止に向けた取り組みを一層推進していきます。



#### 基本方針

「キリングループは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよろこびを広げていきます。」 というグループ経営理念のもと、不適切な飲酒による様々な問題を防止し、適正飲酒を啓発する活動を推進していきます。

- 1. 適量で節度ある飲酒(適正飲酒)は、効用もあり、人と人とのコミュニケーションを広げるとの認識にたち、アルコール飲料との正しい付き合い方についての知識の普及に努めます。
- 2. アルコール飲料のもつ致酔性、過度な飲酒による依存性などを認識し、不適切な飲酒による様々な問題の防止に向け、正しい知識の継続的な啓発活動を行います。

#### 行動指針

- 未成年者飲酒の防止 飲酒運転の防止 イッキ飲みの防止 妊産婦の飲酒防止など
- 3. 事業活動にあたっては、法令、業界自主基準、キリングループの自主基準を厳守し、適正な飲酒の啓発、不適切な飲酒の防止に努めます。
- 4. 不適切な飲酒の防止に向けた社会の活動を積極的に支援します。
- 5. 適正飲酒強化月間を設け、全社員を挙げて、社員研修や自己啓発に取り組みます。

## 広告・宣伝における自主基準の遵守

キリンビールは、広告・宣伝活動において厳しい 自主基準を設け、倫理委員会で自主基準に基づいた チェックを厳格に実施しています。また、自主基準 も世の中の動向を把握し、常に見直しを行い体制の 強化に努めています。また世界的なアルコール飲料 企業の自主的な集まりであるGAPG (Global Alcohol Producers Group) に加盟し、グローバルな規模でアルコール関連問題に対応しています。





適正飲酒や問題飲酒防止の啓発活動

(2008年12月現在)

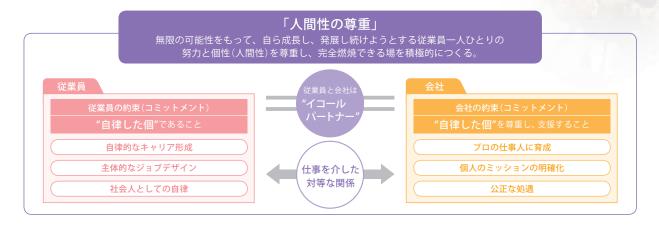
	媒体	仕様等	配布開始年月	主な対象	累計配布数
お酒と健康ABC辞典	小冊子	A5判53ページ	1996年 4月	全般	6,353,400部
飲酒と健康(学校編)(一般編)*1	CD-ROM		2000年 1月	中学校/一般成人	182,700部/14,200部
未成年者とアルコール	VHS	23分	1993年 2月	高校·大学	33,000本
改訂版 未成年者とアルコール	VHS / DVD	26分	2005年12月	中学校	27,100本
改訂版 未成年者とアルコール	DVD	英語・中国語・日本語スーパー	2006年 2月	海外·聴覚障害者	27,100本
知る・楽しむ・お酒と健康**2	Web	キリンビールホームページ	2007年 9月	全般	

<sup>※1</sup> 配布終了 ※2 知る・楽しむ・お酒と健康 http://www.kirin.co.jp/about/knowledge/index.html

# 多様な人材がいきいきと活躍するために

企業を取り巻く社会環境は、大きく変化しています。こうした変化を自らの中に取り込み、 力に変えていくことが求められていると考えています。そのためにもキリングループでは、 「多様な人材が活躍する企業グループ」をめざしていくこととしています。

#### 従業員に対する考え方



## 「KWN地域会」の開催

キリン・ウィメンズネットワーク (KWN) では、女性従業員を対象とするフォーラムとして「KWN地域会」を開催しています。全国を8ブロック (北海道・東北・首都圏・横浜・中部圏・近畿圏・中国四国・九州) にわけ、2008年には春と秋で合計31回開催しました。

KWN地域会では、女性従業員の意識改革や行動改革をめざし、将来に不安なくいきいきと働き続けられる組織風土に向けて、KWN活動の理解と方向性の共有化を図っています。

2008年の春には、主体的に自ら行動することの重

要性に気づきを与えるプログラムとして、社外講師 を招いた研修や講演会を行いました。秋には激変す る企業環境を意識し、新たな環境の中で自分がどの ように仕事に向き合い、チャレンジしていくのかを 考える時間を設けました。

いずれも女性従業員に新たな気づきを与え、働き続けることへの期待感の醸成に繋がっています。また、女性従業員の新たなネットワークの場にもなっています。

2009年もKWN活動のさらなる定着のために、KWN 地域会を春と秋に開催します。

#### 多様な人材が活躍する組織風土めざして、まずは「女性従業員活躍推進」をすすめています。

中核企業であるキリンビールは2007年に「キリン・ウィメンズネットワーク」(KWN)を立ち上げ、この2年間は「半歩でもいいから、前へ。」をテーマに①女性の意識改革と②いきいきと働き続ける環境づくり、の二つの側面から活動をすすめてきました。2008年は自ら手を挙げた8名の推進委員と22名の地域のサポーターと共に活動しました。毎年経営陣に対する提言を行い、2008年は「配偶者理由等による休職制度」「再雇用制度」が会社の制度として策定され

ました。今後も全従業員が多様な働き方を選びながらい きいきと働く環境づくりをめざしていきます。



キリンホールディングス株式会社 人事総務部 多様性推進プロジェクトリーダー 神元 佳子

<sup>多様性推進</sup> プロジェクト 金井 麻美子







ファミリーDAY」で社長と名刺交換

## 「メンタリングプログラム」の導入

女性が働き続けるうえで感じる将来への不安、相 談相手や身近なロールモデルの不在といった課題の 解決策のひとつとして2008年2月よりキリン・メンタ リングプログラムを導入しました。

メンタリングとは「緩やかな助言・支援関係」のこ とで、知識や経験豊かな人(メンター)が、豊富な知 識と経験をもった人の指導を受けて学び成長しよう とする人(プロテジェ)に対して、一定期間継続的に 行う、キャリア的、心理・社会的な支援のことです。

約1年間で女性経営職をプロテジェとした30組のメ ンタリングを展開。将来に対する漠然とした不安に 心理的な安心感が与えられる場となっており、キャ リアを考える視野が広くなるなど、仕事面・心理的 側面・キャリア的側面での支援に繋がっています。 2009年はプロテジェの対象を総合職に広げ、さらな る展開を図っていきます。

## 「ファミリー DAY」の開催

2008年8月、キリンビール本社で初めてのファミ リーDAYを開催しました。ファミリーDAYとは、子 どもに親の職場や働く姿を見てもらう機会を提供し、 子どもの親に対する理解と親子のふれあいを深める きっかけとする日です。

当日は25名のお子さんが、お父さんやお母さんと 一緒に出社しました。社長との名刺交換、職場訪問、 キリンに関するクイズ大会、社員食堂での特製ラン チなど、さまざまなプログラムを通じて会社での日 常を子どもたちに体験してもらいました。

子どもが親の働く姿を見ることで「働く」ことへの 理解が深まる日となり、また従業員にとっては、仲 間のワークライフバランスについて考えるきっかけ となりました。年に1度の特別な日として、2009年も 開催を予定しています。

2008年の「多様性推進プロジェクト」の焦点は、キリン・ウィメンズネットワー ク(KWN)の積極的な活動で女性従業員が自信を持っていきいきと働くための さまざまな支援を行い、メンタリングプログラムの導入などで女性の

> 意識が高まっているとのことは素晴らしい前進だと思います。次 の課題としては「成果を検証するしくみ」を持つことで、KWNの 推進者たちの努力が目に見えるようにすることが必要です。また 「多様性推進」が女性のためだけでなく、全従業員の個々の成長を 支援するものとなることを強く期待しております。

> > NPO法人 GEWEL 代表理事 堀井 紀壬子 様



## ご意見をいただいて



成果を検証するしくみについては次期中 期経営計画にて新たに目標を定め、お客様 や従業員に見える活動にしていきたいと 考えています。今後も多様性推進が、さま ざまな価値観を持った従業員がいきいき と活躍できる組織風土につながると考え、 活動をすすめていきます。

# いきいきと働ける職場づくり

## 従業員に対する考え方

キリングループ経営理念の下に「KIRIN WAY」と 「グループ行動宣言」があります。「グループ行動宣 言」では、従業員に対して「人間性の尊重」という考 え方を示しています。これは、「自ら成長し、発展 し続けようとする従業員一人ひとりの努力と個性 (人間性)を尊重し、完全燃焼できる場を提供する」 というものです。

また、「KIRIN WAY」はグループで働くすべての従 業員に求める「価値観」と「行動の基本姿勢」を示し、 これに基づく企業活動を志向していくこととしてい ます。キリンビールなどでは、「KIRIN WAY」を人事 考課のしくみにも取り入れて定着を図っています。

## 人材の育成

グループ各社において、さまざまな教育プログラ ムが実施されていますが、グループ共通の施策とし ては、次世代のリーダーを育成するために、「キリン・ エグゼクティブスクール」「キリン経営スクール」と いった選抜型研修をグループ各社から参加者を募っ て実施しています。また、国際化の進展に伴って、 グローバルビジネスに必要な基本能力の向上にも継 続的に取り組んでいます。

こうした選抜型の研修にとどまらず、グループ各 社では、全従業員を対象にしたプログラムや一定の 年齢層、資格層に対して実施する層別研修も実施し ており、中長期の視点に立った計画的な育成を行っ ています。

## 明るい職場づくり

2008年2月、国内グループ会社従業員を対象とし て「人権意識調査」を実施し、各事業所へ結果を フィードバックするとともに全従業員を対象とした 人権研修を実施しました。

調査の中で「(従業員が)現在関心のある項目」とし て「ハラスメント」「高齢者」「障害者」の3つに関心が 高いことがわかりました。いずれの項目も人権啓発 の基本方針のひとつである「明るい職場づくり」に関 連した項目です。

「ハラスメント」については、毎年6月を「ハラスメ ント撲滅月間」として2005年から啓発活動を継続し

ています。「高齢者」に関しては、すでに雇用延長制 度の整備などに着手しています。「障害者」について は、2007年のグループ人権研修の統一テーマとし て活動を行いました。これらの課題へのグループと しての取り組みは今後も継続していきます。

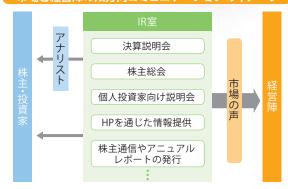
明るい職場で従業員がいきいきと働くことは、キリ ングループが社会から信頼を得るためのベースと考 えており、行動規範ハンドブック『The RULE.』(→P7) でも「人権尊重・差別禁止」の項目を設け、全従業員 への周知徹底を図っています。

# 株主・投資家とのコミュニケーション

## 企業価値向上にむけて

キリンホールディングス IR室では、株主・投資家に対して、透明性、公平性、継続性を基本に、迅速な情報提供に努めています。また、情報発信だけでなく、株主・投資家から寄せられた意見を「市場の声」として定期的に経営陣へフィードバックし、経営への提言も交えるなど、市場と経営陣の双方向コミュニケーションを重要なミッションと位置付けています。株式の面でも、「アジア・世界のキリン」へ脱皮すべく、より積極的に活動していきます。

## 市場と経営陣の双方向コミュニケーションのイメージ



#### 2009年以降は「質的拡大」に重点を置く

キリングループは、「飛躍的な成長」を目標とした長期経営構想KV2015に沿って、順調に基盤と規模の拡大を続けてきました。2009年からはその基盤を活かしたグループシナジーの創出、効率性を追求した「質的拡大」のステージとし、収益性の向上を実現していくことをめざしています。これからも、決算説明会、

個別ミーティング、株主総会や個人投資家向け説明会といったステークホルダーの方たちとの直接対話を大事にしながら、「信頼」と「躍進」のブランドとして支持される企業グループとして企業価値の向上を図っていきます。

キリンホールディングス株式会社 古元 良治



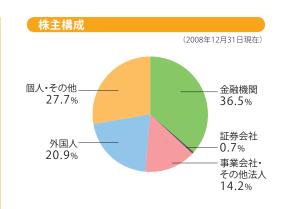
## アナリストから見たキリングループ

現在のキリングループは国内外で展開する酒類や飲料、食品、医薬、アグリバイオなどがあり、将来的に大きな可能性を秘めている一方で、事業幅が広すぎてビジネスモデルやマーケットがモルガン・スタンレー証券出村泰三様

見えず、消費者や投資家にグループの全体像が伝わらないのが難点です。キリンと聞けば、すぐ事業内容や商品がわかるようにすればブランド価値も高まると思います。ビジネスが横に広がりすぎるとベクトルが揃いにくくなりますので、選択と集中により質的拡大を行う姿勢は評価できます。今後も「キリンは必ず何かやってくれる」と市場は期待しています。

#### IR活動への評価

日本アナリスト協会が毎年発表している「ディスクロージャー優良企業選定」では、継続的なIR活動が評価され「高水準でのディスクロージャー維持企業」の1社として表彰を受けました。また、世界の機関投資家向け専門情報誌「Institutional Investor」(本社:米国)において、2008年の日本の飲料・食品・タバコセクターのIR部門で、「Most Shareholder-Friendly Companies」に選出されました。



🔖 詳しい情報は、Webサイトでご覧いただけます。 🚞 ディスクロージャーポリシー(開示方針) 🥟 🚞 インデックスへの組み入れ状況

# 社会貢献

## スポーツ支援

## サッカー日本代表支援

キリンビールは1978年からサッカー日本代表を応 援しており、1998年からはキリンビバレッジととも に「日本代表オフィシャルスポンサー」として、日本 のサッカー界を支援してきました。現在は、日本代 表チームの強化はもちろん、日本におけるサッカー 文化の創造に貢献したいという想いから、「世界に 挑戦するすべての日本代表チームの応援」「日本代表 を応援するサポーター・ファンの応援」「サッカーを 通じた次世代育成」を3つの活動の柱として支援を継 続しています。今後も、「サッカーを愛し、サポー ター・ファンを愛し、夢に向けて応援していく」と いう企業姿勢を、「KIRIN LOVES SOCCER」というキー

ワードに込めて、さまざま な活動を展開していきます。



©J.LEAGUE PHOTOS 2008年5月24日「キリンカップ」 対コートジボワール代表戦

## サッカーを通じた次世代育成

サッカーを通じてジュニアにスポーツの楽しさ、 心の豊かさを伝えることを目的とし、2008年から、 全国12都市で小学生を対象としたサッカー教室「キ リンサッカーフィールド」を展開しています。講師 には元サッカー日本代表選手の城彰二さんを迎え、 サッカー技術だけでなく心の教育なども伝えながら、 日常会うことのできないプロ選手とのふれあいの場 を提供していきます。

また、親子のふれあいや、子どもたちがサッカー の楽しさに触れることを目的として、「JFAファミ リーフットサルフェスティバル with KIRIN」を継続 して展開しています。さらに、環境保全の観点から、 2003年より日本サッカー協会とともに取り組んで いる「クリーンスタジアム活動」を積極的に展開して います。未来にわたってサッカーを楽しむためにも、 できることから取り組んでいこうという想いを共有 するサポーターにボランティアで参加いただき、ス タジアムでのクリーンアップ活動などを実施。これ までの参加者は累計で1万3千名を超え、活動の輪は 広がっています。



キリンサッカーフィールド



© LI FAGUE PHOTOS クリーンスタジアム活動

## 各社の社会貢献活動

## 芸術文化を通じた社会貢献(キリンホールディングス)

より幅広いお客様へ身近に音楽に親しんでいただく場 を提供することを目的に、ピアノデュオ「レ・フレール」 の全国ツアーに協賛しました。2008年は、各地の盲学 校・視覚特別支援学校に通学する児童と生徒を中心に、 11会場で一部座席計300席を「キリンシート」として提

供し、グループ14社の従業員 58名がボランティアとして会 場内でサポートを行いました。



#### メルシャン軽井沢美術館

メルシャン

アートと自然と食の融合したミュージアム・パー クとして1995年に開館しました。2008年は、ウィ リアム・モリス、シャガール、ル・コルビュジェ らの作品展を開催しました。障害者・高齢者割引

の実施のほか、中学 生以下には無料で公 開しています。



メルシャン軽井沢美術館

## バイオアドベンチャー実験室(協和発酵キリン

東京リサーチパークでは、2000年より出前理科実 験教室(バイオアドベンチャー実験室)を開催して います。2008年は4つの学校・施設を訪問し、微 生物の顕微鏡観察・DNAの抽出・免疫反応を利用

した発色実験などの体 験学習を含む授業を行 いました。



バイオアドベンチャー号

## 途上国の食糧問題解決支援(キリンホールディングス)

1993年に創設した「国連大学キリンフェローシッ プ」プログラムでは、途上国における食糧問題の 自主解決に向けて、食品分野に関わる研究開発を 支援しています。毎年、アジアを中心とした研究 機関から、国連大学が推薦する5名の研究者を独 立行政法人「農業・食品産業技術総合研究機構食 品総合研究所」に招いています。このプログラムは、 フェローたちが食品分野における研究を1年間行 い、習得した知識と技術を、それぞれの国で普及 させることを目的としています。2009年3月まで

の16年間で9カ国78名 のフェローを支援しま した。



研究中の2008年フェロー

## 理工系進学体験イベント キリンアグリバイオ

植物開発研究所では、2006年より帝京大学宇都宮 キャンパスで開催される「理工系進学体験イベン ト」に参加しています。ものづくりの現場を体験し、 理工系で学んだことが将来どのように役に立つの か理解してもらう取り組みです。3回目となった 2008年は「植物にきく(訊く・利く・効く)」という テーマで行い育種や培養技術などについて、約

250名の方に学んでい ただきました。



レクチャーの様子

#### キリンビバレッジ・ キリンビバレッジ スリランカフレンドシッププロジェクト

1986年の発売開始以来、20年にわたり紅茶飲料「午 後の紅茶」の本格的な味わいを支えてくれている、 スリランカの紅茶葉に感謝をこめてプロジェクトを 開始しました。茶園労働者の子弟が通う小中学校に、 図鑑や物語、ワークブックなどの図書と書棚を寄 贈し、5年かけてライブラリーを完成させる予定で す。次世代への教育支援に対し、スリランカ政府

からも最大限の感謝の 意を頂戴しています。



寄贈先の小学校の子どもたち

## 海外での活動

#### **Big Brothers Big Sisters** ナショナルフーズ ~ Mentors for young people

「Big Brothers Big Sisters」プログラムは、犯罪や麻 薬、家庭内暴力など、さまざまなリスクや危険に 直面し、難しい立場にいるオーストラリアの7~ 17歳の子どもたちに、適切な監督者や相談相手を 見つけるメンタリングプログラムです。2001年か

ら継続して主要スポン サーになり、資金援助の ほか、運営上のさまざま な支援を行っています。



活動の様子

#### 中国・四川大地震被災地支援 中国のグループ会社

2008年5月の中国・四川大地震に際し、麒麟(中国) 投資有限公司、麒麟啤酒(珠海)有限公司など中国 のグループ会社5社が、寄付金や医薬品・清涼飲 料などの支援物資をすみやかに中国赤十字会経由 で提供し、現地の事業所の従業員が自発的に募金 をした支援金も寄付しました。被災地の一日も早 い復興を願って、キリングループは中国赤十字会 に100万元(約1.500万円)を寄付しました。

## 事業会社報告書のご案内

主要事業会社各社では「環境報告書」「サスティナビリティレポート」をWebサイトで公開しています。

- キリンビール 環境報告書 http://www.kirin.co.jp/csr/env/
- キリンビバレッジ 環境報告書 http://www.beverage.co.jp/csr/ environment/
- メルシャン 環境報告書 http://www.mercian.co.jp/company/eco/
- 協和発酵キリングループ サスティナビリティレポート http://www.kyowa-kirin.co.jp/csr/ environment/sustainability/
- LION NATHAN SUSTAINABILITY REPORT http://www.lion-nathan.com.au/ Our-Responsibilities/Reports.aspx

## お問い合わせ先

## キリンホールディングス株式会社

CSR·品質推進部 〒104-8288 東京都中央区新川2-10-1 TEL 03 (5540) 3454 FAX 03 (5540) 3550 www.kirinholdings.co.jp

## 発行情報

今回:2009年6月 次回:2010年6月予定



